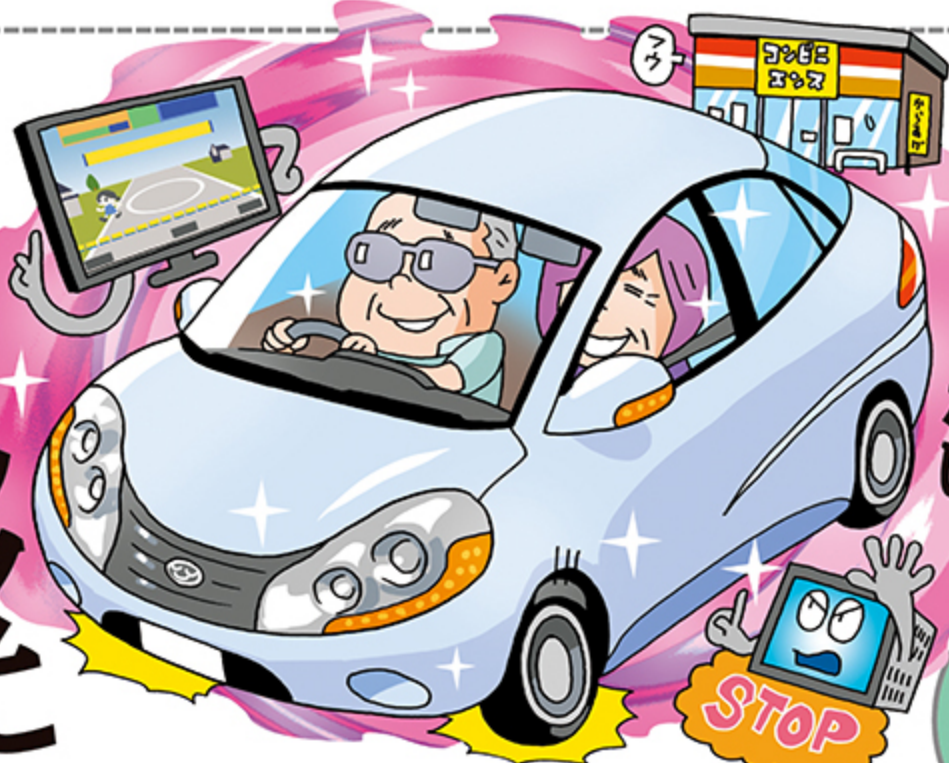


人にクルマに
おこなう方策



免許返納が
全てじゃない!

緊急
特集

～自分のために、家族のために、カーグッズでデキルこと～

高齢運転者ポーター



東北大学加齢医学研究所
野内 類 准教授



東北大学加齢医学研究所 所長
川島隆太 教授

アプリの監修を行う川島教授と、その効果を実証研究した野内准教授。大学としても、研究成果を社会実装することに大きな使命を感じているという。

ただ、CGMの意見は違ふ。純正車そのもので足りない部分、市販用品を付け足すことで補うように、運転能力の衰えも、トレーニングなりのアドバイス補助を受ける形で補

えばいいというのがその意見。目が悪くなったなら眼鏡使用を前提に免許交付を受けるのと、いわば同じ考えだ。ただ実際問題として、高齢運転者講習の場が混雑を極めるなど、それに要する時間も場所も何より機会が限られるのは承知している。それでも、きつという方法が出るに違いないと考えていたところで、うってつけのニュースを得た。

今の愛車のままで施すカイゼン策

ここに来て、言及されることが増えてきた「高齢者運転による事故リスク」。新型車には安全機構が備えられるようになり、車両買い替えによる対策効果は確かに大きい。けれど、とうぜん高額出費を伴うだけに、おいそれと買い替えられない現実もある。では、その他に手段はないだろうか。年老いた両親のため、そして近未来の自分のためにも、免許返納以外の対策方法をここで考えてみたい。

運転に必要な脳の力はハタチがピーク!?
このところ頻繁にニュースとして報じられるだけに、自らのこととして重く捉えるひとも多いだろう。高齢ドライバーによる重大事故。読者のみなさんからの投稿でも、関連するお便りは数多く、カーライフにおける喫緊の課題となりつつあるようだ。

意外だったのは、自身の将来のこととしては半ばあきらめ気味に、そして親御さんを見守る立場ではなるべく早く返納してもらいたいという、共に後ろ向きな意見が多かったことだ。確かに周りの見方も概ねこの通り。大勢である